

第14回定例教育委員会 会議録

開催月日 令和4年1月19日（水）

開催時間 午後3時30分から午後4時55分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 三井 孝夫
教育長職務代理者 佐藤 喜美子
教育長職務代理者 岡部 和子
委員 松坂 浩志、小澤 幸子、長澤 重俊

出席職員 教育次長 小田切三男
教育監 手島 俊樹
理事 降旗 友宏
次長（総務課長） 藤原 鉄也
義務教育課長 秋山 克也
高校教育課長 高見澤圭一
高校改革・特別支援教育課長 保坂 一郎
総務課主査 新海佐貴子
総務課主事 數野 浩己

義務教育課
課長補佐 石原 裕
課長補佐 岩澤 宏行
高校教育課
副主幹・指導主事 高鳥 亮太
高校改革・特別支援教育課
課長補佐 加藤 幸一
副主幹・指導主事 原 満登里
保健体育課
総括課長補佐 塩田 岳
主幹・指導主事 清水 宏次

傍聴人 1名

報道 0名

会議要旨

[教育長開会宣言]

1 議 案 な し

2 報告事項
(12) 第6回大村智自然科学賞受賞者について
[説明] 高校教育課

佐藤委員 昨年まで確か個人研究が多かったように思うんですけど、今年は共同研究ということで大変感銘を受けました。これまでの入賞の研究内容等をオンライン等で多くの中学生や高校生が見ることはできるのでしょうか。もしそうなっていただければ、波及効果を狙ってオンライン等で発信していただけないかなと思いましたが、いかがでしょうか。

高見澤課長 現在、実は我々もこれを文章等で見ている段階ですので、今いただきましたオンライン等で研究発表が直接配信することも今後検討していきたいと思えます。

佐藤委員 ぜひお願いします。

岡部委員 先程の選考基準の説明で、「素晴らしい業績の」という項目があったと思うの

ですが、やはり大勢の方にこういったものを還元するために、佐藤委員が言ったように、今までの過去のものも本当に感心する研究をなさっていて、皆さんが色々知りたいということがあると思うので、理科部会や数学部会にもっともっと発信していただきたくことを要望します。お願いします。

高見澤課長 できるだけ多くの生徒の励みになるような形にしていくことも大事だと思いますので、今後また検討させていただきたいと思います。

【 了 知 】

3 その他報告

(15) 令和4年度「山梨県学校教育指導重点」について

〔説明〕 高校教育課

岡部委員 まず1点目、授業の改善、教育課程の評価・改善という所があったと思います。そのことについて、カリキュラム、マネジメントの関係で、評価・改善に対して反省、改善をすることが大切だと思いますので、そこをもう少し太枠に出来ないのかなと思います。これ以上出来なければ、このままで仕方がないんですが。

もう1点は、いじめ・不登校への対応です。組織的な支援体制を充実させるため、スクールカウンセラーや校内スタッフ、関係機関と連携を図るということですが、今いじめ・不登校への対応だけではないような気がするので、生徒指導とか教育相談の充実というのもどこかに入れていって、特に教育相談を自分から、今回の東大前の事件のようなことがないように、教育相談の充実という言葉がほしいなと思いました。

3点目です。伝統や文化等に関するという所の、地域や世界で活躍できる人材の育成。ここの所でやはり大切なのはグローバルや、もう当たり前だけれども国際理解教育という言葉が何かほしい、世界の平和を願うことはもちろん、そして伝統や文化もという所はグローバル化で学ぶことはできるけれど、国際理解教育という言葉がほしいなと思いました。以上、3点です。

高見澤課長 まず、学力についてですが、PDCAサイクルをきちんと回しながら、実効ある取り組みにしていくことが必要だと考えております。今後、これを基に義務教育課、高校教育課で説明会を開きます。その説明資料の中で、何らかの形で強調する方法を取っていきたいと思います。

それから教育相談ですが、このSOSの出し方に関する教育というところで、学校には教育相談体制も含めて取り組みを強化してもらうために、このような項目を置かせていただいたところでもあります。これにつきましても説明会等の中で強調しながら話をしていきたいと思います。

また、グローバルな視点を持って、将来に必要な基盤となる能力や態度の育成ができるよう、説明会において、国際理解教育の推進について、それぞれの教育委員会、学校に働きかけていきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございます。

岡部委員 よろしくお願いします。

佐藤委員

R4年度の指導重点について、3年度の現場の状況や成果を踏まえた中でというお話がありまして、それって大変良いなと思いましたが、過日管理職試験等において、例えば学力の面では山梨スタンダード等を取り入れながら、学校でかなり頑張ってくれているようなのですが、課題は何かと問うたところ、狙いに迫る学習課題の設定がまだ弱いということと、振り返りがなかなかできていないという声がありました。指導重点はあまり網羅的なことを盛り込まず、今年度はここに全ての学校が力を入れてやっていきたいと思いますという、そのリードをしていくことが大事かなと思いましたが。ただ授業改善と言って白丸がいくつもあるんですけど、表面的なことしかないんです。主体的、対話的で深い学びについて、皆さんはこれを暗記するぐらい分かっているんですけど、その具体はどうするのかという所を、もう少し提示していかないと学校は動いてくれないと思うので、そういう指導重点であってほしいなと思いましたが。そういう趣旨からもう1点。④の伝統や文化等に関する教育の推進ですが、義務教育は基礎学力を一人ひとりとにかく定着させるということを第一にしてほしいと思う一方、義務教育段階から将来やりたいことの糸口が見出せるような教育をしていく必要があると思っていて、そういう教育活動の実施ということで④の伝統、文化、教育の推進に、地域の強み、地域の良さ、地域の課題、そういうものを発見、追及する教育の充実という、そういう文言が入るといいのではないかなと思いましたが。何か分かりやすく目玉が現場に伝わることで、全体の底上げにつながるのではないかなと思いましたが、そんな意見を申し上げました。

それから特別支援教育の推進の、専門性の向上という所がキーワードにあるんですけど、特別支援教育の中で、一人ひとりの子どもさんの特性を育てるといっていいのかな、教員の専門性を高めることなのか、ここにいただいた資料はタイトルだけだったので、タイトルだけ見たときにその両方が自分の頭の中には浮かびました。ぱっと見て、その中身が見えるような指導重点にしていただくことが大事かなと思いましたが、もし改善できるようであればぜひお願いしたいと思います。

それから、去年は管理職面接か何かの時にいただいたように思うんですが、三つ折りのものを見せていただきました。今年は全くなかったもので、ここにきて「最終の」と書いてあり、これはちょっと厳しいかなと思いましたが、岡部先生同様意見を言わせてもらいました。お願いします。

高見澤課長

作業の遅れ等も若干影響しまして、提示する機会を逸しておりました。大変申し訳ございませんでした。全体の大きな作り等については、また来年度になってしまいますが、作り等についても今の貴重なご意見をいただいたことを踏まえ進めていきたいと思っております。

秋山課長

ご指摘いただきました伝統・文化等に関する教育の推進という所ですが、ふるさと山梨等々を活用する中で、各小学校において地域を重視した活動を行っております。そういった中で地域との連携、郷土に関する学習を行っておりますので、まずは自分の小学校の身近な地域から進めて、最終的には山梨県を含めた広い範囲での学習に進めていきたいと思っております。地域を重視した取り組みについて、これからも進めていきたいと思っております。

保坂課長

特別支援教育の推進の専門性の向上ですが、教員の専門性の向上のための研修会ということになっております。指導重点のこのタイトルの中身について、もう少し読まないと分かりづらいというご指摘を受けましたので、分かりやすいような表現にこれからは改めていきたいなと思っておりますが、今回はこういう形で申し訳ございませんが、よろしく願いいたします。

- 小澤委員 健康・体育のことについての言及があまりなかったと思うので教えてください。去年の教育委員会会議でも述べさせていただいたんですが、がん対策の基本法が平成18年に出て、平成24年の6月に文科省からも健康に関する国民の基礎的な教養として、がんの知識は重要であるということで義務化されたと思います。それにおいては、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい知識を持つよう教育することを目指して、5年以内に学校での教育の在り方を含め、健康教育全体の中でがん教育をどのようにするべきか検討し、検討結果に基づく教育活動の実施を目標とされています。義務化されたにも関わらず、扱いがすごくいつも小さいなというふうに思っておりまして、この点においてご説明いただけたらと思います。国の指導に沿って目標として反映させていくべきではないかと考えます。
- 塩田総括 貴重なご意見ありがとうございます。
がん教育、がん対策基本法に基づきまして、各学校において取り組むことになっているという旨を承知しております。昨年度もご指摘をいただいたということで、ここには細かく書いてありませんけれども、各方面からのご指摘をいただいておりますので、各学校において、がん教育に取り組むよう指導してまいります。まだこの段階では具体的に申し上げることができませんが、来年度の授業におきまして、がん教育について具体的に取り組むような形を考えております。こちらの指導重点は、具体的にそれぞれの教育のことまで記載してありませんが、一応そういう形で来年度に向けて取り組んでまいりますつもりでございます。
- 小澤委員 分かりました。
- 佐藤委員 すみません。小さなことですが、表記上のことです。文科省から出ている文章には「一人一人」と漢字表記になっていると思うので、そこを「一人一人」にしたかどうかとずっと思っていました。
それから夢や希望を持つという場合の「持つ」は、手偏の持つではなくて、ひらがなの「もつ」で、文科省ではそのように統一していると思いますので、その点見直していただければと思いました。以上です。
- 高見澤課長 「一人ひとり」の表記につきましては、昨年実は混在しておりましたので、山梨県の教育大綱、この表記を基に「一人ひとり」という形で今回は全て統一させていただいているところです。
「持つ」については、少し検討しまして、対応できれば場合によっては変更をしたいと思います。
- 小澤委員 また来年こういうときに私が同じことを言うといけなないので確認なんですけれども。がん教育については、色々いただく資料の中では文字にはなっていないけれども私たちには見えてこないけれども、個別に取り組んでいるので大丈夫ですという説明だったのかもしれませんが、この主な取り組みに今後もある可能性はないのでしょうか。それも含めて先程ご発言いただいた課の方は検討して下さったということでしょうか。
- 塩田総括 個別の事業について記載をどうするかということにつきましては、他の教育とのバランスの問題等もありますので、全体の組み立てをどうしていくかということも含めて、また今後検討させていただきたいと思っております。
- 小澤委員 分かりました。同じ時期にGIGA教育やICT教育を推進していくことが採択されたと思うんですが、同じ時期に採択された割にはこちらの扱いがずいぶん小さいなという印象を持っております。ありがとうございました。
- 塩田総括 申し訳ございません。今後また検討してまいります。

【 了 知 】

- (16) 県立高校のスクール・ミッション及びスクール・ポリシーの公表について
[説明] 高校改革・特別支援教育課

佐藤委員

丁寧な説明ありがとうございました。
これは本当に今後中学生が、それぞれが生きる道といいますか、進路を考える時に大いに役立ててほしい情報になるなと思いました。ありがたい情報だと思います。
初めて高校に自分の子どもを行かせるような親、初めての受験生、そういう中学生にできるだけ分かりやすく書いていただけてくことが、とても重要ななと思います。例えば巨摩高校で巨摩スタイルと書いてくれたんですけども、巨摩スタイルって書かれてもたぶん中学生は分からないかなと思います。西高については国際バカロレアでDPに認定されて、国際的な教育プログラムの中から確か6科目設定されたと思うんですけど、どんな科目があるのかなど、中学生が知りたいところを、できるだけ分かりやすく書いてほしいということを強くお願いしたいと思います。サイエンスラボなどの横文字も結構入ってきていますけれど、それが理科教育のことを意味しているのか、実験教室を特にやっているという意味なのか、単位制ということについても、もうかなり進路指導で行われているとは思いますが、自分の興味関心に応じて科目が選択できる学習なんだということなど、初めて高校受検する生徒たちが自分の最も行きたい高校を選ぶ大事な情報源になるよう、ぜひ分かりやすくということをお願いします。以上です。

保坂課長

これを定めるにあたって、読んでいただく対象はまさに中学生、中学3年生ということ想定しておりますが、より分かりやすい説明をしていく必要があると思っております。

岡部委員

オープニングスクールなどの説明会の前にこれが配られると思うんですが、まずスクール・ミッションとスクール・ポリシーと一緒に合体されて公表されるのは分かるんですが、一緒になってお配りするのかどうか。別添1のスクール・ミッション、別添2のスクール・ポリシー、別々なのかどうかがよく分からない。というのはスクール・ポリシーの中にスクール・ミッションという言葉が入っている学校と入っていない所がある。それからビジュアル的には良いかもしれないけれど、昭和高校と東高校が横版になっているのを、あのまま載せるのかどうか。見やすいようにするためにはどうするのかということで、校長の意見や要望をそのまま尊重したということなんですが、指導が入ってああいう形なのかどうか。統一性をあえてしなかったのか。私たちはよく学校経営とか教育方針の話をするんですが、ポリシーというのは方針のことであり、あえてこれを文科省がやりたいというのは魅力ある学校を望んでいるのだと思います。オープンスクールに行けば分かる、学校の説明会を聞けば分かる、あるいは学校要覧を見れば分かる。でもそれよりもいち早くこれをお配りするのであれば、やはりその辺のところを統一してもいいのかなと思いました。

保坂課長

ご意見ありがとうございます。
まずスクール・ミッションとスクール・ポリシーと一緒に書いてあったりなかったりすることにつきましては、スクール・ミッション、これは教育委員会で定めるということで別添1でまとめたものになります。スクール・ポリシーは、それを踏まえて各高校で定めるものになりますので、スクール・ミッションがこうだからスクール・ポリシーはこうだと書いてくれた高校が多いんですけども、スクール・ミッションはもう別に定まっているので、ポリシーだけを書いたという学校もあります。統一を図ったほうがよいかわかですが、こちらでもある程度ベースをお示しして学校に作っていただいたので、同じスタイルの学校が多いですが、横版で書いてくれた高校はもっと踏み込んで、色々と職員や地域の住民と話をしたところもございます。こちらとしては、あまり縛らないで作ったところがございます。少なくとも今日お見せしたときに縦表示になってしまったところは、インターネットに出す画面は横表示でお見せするように、見やすいようにしたいと思っておりますが、学校の独自性というか、それぞれの取り組みを尊重させていただいたところでもあります。

- 岡部委員 普通科など科名を書いている学校と書いてない学校があります。書いていない学校はあえて書いていないのかどうか。青洲高校のように、普通科があつて、総合学科があつてと書いてあるけれども、中身はカリキュラムポリシーが違うだけでページ数を複数にしているようなものもある。どんな学科があるか分かるように記載した方が良くはないでしょうか。
- 保坂課長 青洲高校は3枚に分かれて書かれているところなんですけれども、岡部委員がおっしゃる科が書かれていないというのは、どのこと・・・。
- 岡部委員 韮崎高等学校だったら普通科とありますが、他の学校で学校名だけしか書いてない所があったということだけなんです。青洲高校は他の学校のように、カリキュラム・ポリシーの内容が違うところだけを、普通科、工業科、商業科別にすれば3枚にはならないのではないかとということだけだったんです。その2点です。
- 保坂課長 まず各高校で科が書かれていないところがあれば、そこは改めさせていただきたいと思います。
- 岡部委員 ありがとうございます。
- 保坂課長 それから青洲高校は3つを3枚で書いてくれたので、できれば学校の意向を尊重できればと思っています。青洲高校のホームページにここは載りますが、できれば高校も生徒や住民の方と話をしているので、あまり教育委員会からスタイルを整えてほしいと言わない形で、ご容赦願えればと思います。
- 岡部委員 はい。では未来ある子どものために、ぜひオープンスクールや学校説明会を通じてより魅力ある学校にしてほしいと思います。ありがとうございます。
- 教育長 スクール・ポリシーの中身については、こういう形ということですが、生徒や保護者の方にどうやって見せていくかというのは、工夫の余地が十分あると思いますので、学校にも話をし、あるいは県のホームページもそうなんです。どうやって見やすくするのか、分かりやすくするのかというのは、少し検討を加えさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。
- 松坂委員 今回決めた趣旨は、山梨県の教育委員会で各学校のポリシーを決めているわけですね。
- 保坂課長 ポリシーについては、各高校が決めております。
- 松坂委員 県はミッションを決めているわけですね。ミッションの全体像が少し分からないんですけれど。ミッションは県の方針を踏まえて決めたということで良いのでしょうか。教育委員会で、言葉に変えている所だと思うのですが、例えばリーダーを育成してもらおう学校を指定して、ある学校を当てはめている、地域を支えるというような言葉になっている学校は、この学校にミッションを与えているというような、教育委員会で何らかの方針に従って決めたということなのでしょうか。

- 保坂課長 このミッションにつきましては、教育振興基本計画や県立高校の長期構想の2020、ここにはそれぞれの高校毎にこういう役割をという所までは書かれていないのですが、どのような教育に取り組むかということは計画に・・・。
- 松坂委員 その内容が分からないとミッションの文言について少し言及しにくいというのがあったんですよね。その位置付けというのは何か見直しがかかるものなんですか。ある程度、当面5年間だけこれに向かうということなのか、学校のスクール・ポリシーについて変更や見直しの時期はどうなっているんですか。
- 保坂課長 これにつきましては、先程の基本計画や長期構想を基本としてスクール・ミッションを定めましたので、その基本計画や長期構想の見直しとタイミングを合わせて、ミッションも改める必要がある所は改めていくことを考えております。そう頻繁に変えるものではないとも考えております。
- 松坂委員 そうすると、スクール・ポリシーもそのミッションの中で、年度年度で変えるものではないということですね。
- 保坂課長 基本的に、この高校はこういう役割をというものがありますので、校長先生が代わったからガラリと変わるとか、そういうものではないと思っております。ただ見直さないという意味ではなくて、ある程度の中期的な期間で、高校はそれに取り組んで行くということで、このミッションとポリシーが定められていると考えております。
- 松坂委員 ですから、基本計画と長期構想が変わらなければ、学校が定めるスクール・ポリシーも変えないということですね。基本的な考え方としては。
- 保坂課長 基本的には、そういうものがきっかけになると思っております。
- 松坂委員 はい、分かりました。基本計画、長期構想の中でマッピング化して、県でミッションを決めた上で、これが発表されたという理解でよろしいのでしょうか。
- 保坂課長 はい。学校とも相談しながら決めました。
- 松坂委員 分かりました。ありがとうございます。

【 了 知 】

[教育長閉会宣言]

以 上